ＩＣＴ利用の効用による孤立防止の可能性を探る

～半数のシニアはＩＣＴ利用で人とのつながりが豊かに！

株式会社ＮＴＴドコモ　モバイル社会研究所

目次

調査結果１　：ＩＣＴ利用による人とつながりの変化
調査結果２　：グループに分けてみるＩＣＴ利用による人とつながりの変化

■　調査結果

１――　ＩＣＴ利用で「家族や友人との交流が密になった」と答えたシニアは約半数

高齢者に関わる様々な社会的課題の一つに「高齢者の孤立」が挙げられる。核家族化が進み、地域の絆が薄れている現代において、高齢者が人とのつながりを豊かにすることは、介護予防・見守り・生きがい等の点で非常に重要である。一手段としてＩＣＴの利用がどれ程人と人とのつながりを豊かにするか、その可能性を今回の調査を分析する中で探っていく。

まずは高齢者を対象とした調査の結果を質問ごとに確認していく。「家族や友人との交流が密になる」が半数を超え、「友人との交流が密になる」も４割を超えた。それに対し、「交際範囲が広がる」や「旧友との交流が復活する」は、３割以下となった。シニアはＩＣＴ端末を利用することで、人間関係には人との交流が密になる「深化」に対して大きな影響があると考える一方、人間関係が「広がる」という点では影響小さい結果となった。（図１）。また、このようなプラス（肯定的）の影響は女性の方が高い傾向にあり、特に「深化」に関する問いにはより高い結果となった。

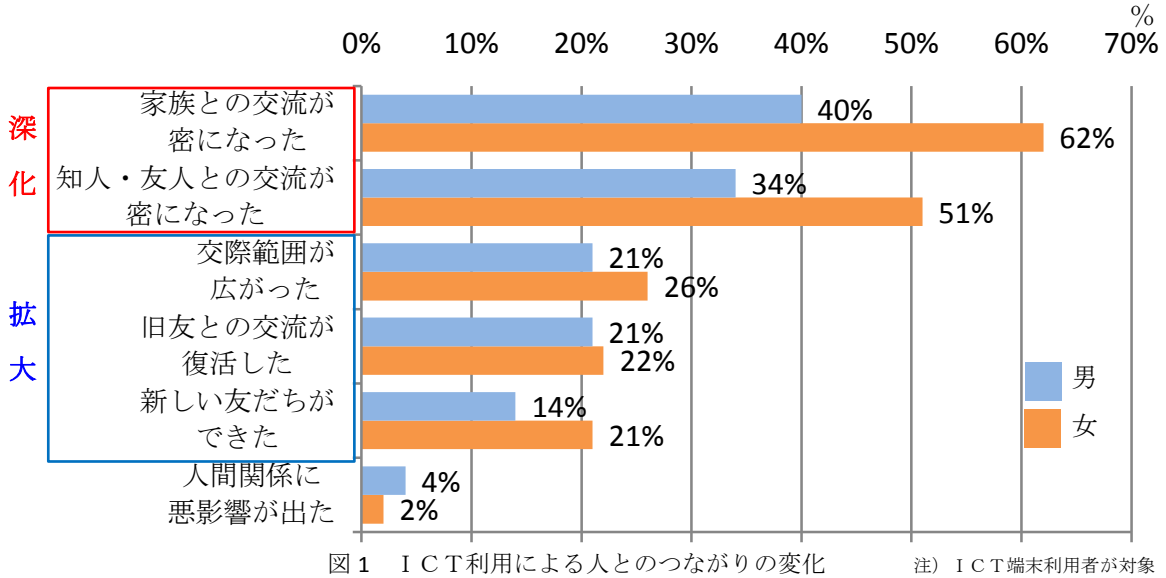


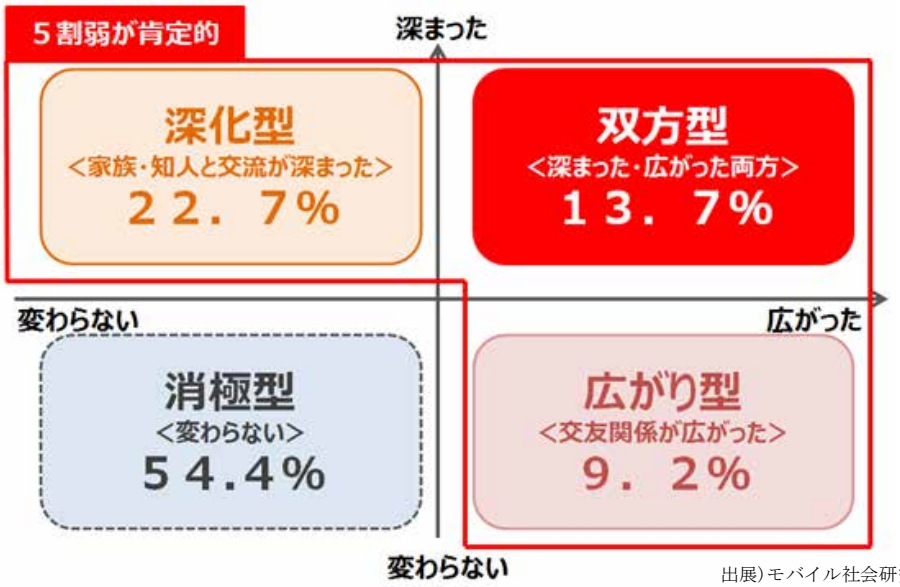
図１　ＩＣＴ利用による人とのつながりの変化

注）ＩＣＴ端末利用者が対象
出展）モバイル社会研究所調べ

モバイル社会研究所
Mobile Society Research Institute

２ ――――　　女性を中心にＩＣＴ利用による人とのつながりが豊かに

次に先ほどあげた質問の結果の特徴を分析することにより、シニアをグループ分けし、その傾向を明らかにしていく。分析の結果、シニアを４つのグループに分けることができた。約半数は人間関係が広がった・深くなった・広がり深くなった(双方型)のグループに属し、肯定的な見解が得られた（図 2)。それぞれのグループには特徴が見られ、「双方型・深化型」は女性の割合が高く、「消極型」は男性の割合が多い。さらに肯定的なグループは日々の生活も活発であった。



出展)モバイル社会研究所独自調べ

図 2　ＩＣＴ利用による人とのつながりの変化の結果によるグループ分け

シニアがＩＣＴ端末を多くの人が所有している現状（レポート NO.1 で紹介）で、そのＩＣＴ端末を利用することにより、約半数が人との関係に肯定的な見解を示したことは、社会的課題になっている「高齢者の孤立」に対し、一定の可能性を示唆した。ただその効果には、女性中心で日々の活動が活発な人という特徴が見られ、偏りがありそうだ。

■今後の掲載予定

今後も、シニアの生活とＩＣＴの利用とどのような関係があるのかなど、次号以降で紹介する予定である。なお調査結果については、「データで読み解くスマホ・ケータイ利用トレンド 2016-2017　ケータイ社会白書」（2016 年 10 月発刊）の中でも記載している。

■調査概要（シニアの生活実態調査）

調査時期　　：2015 年 10～11 月　　調査対象　　：関東(１都 6 県)在住、60～79 歳男女
標本抽出法　：QUOTA SAMPLING　性別・年齢・居住地（都市規模）で割付 530 サンプル回収
調査方法　　：訪問留置調査

■問い合わせ先

グループの分け方、詳細な特性など、ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所　msri-inq-ml@nttdocomo.com